

新潟県

平成4年

# 公民館月報

7月  
第473号



きおん

延喜の遠い昔からの 江野社  
毎年七月七日の きおん祭り  
老若男女は この日を待ちこがれ  
勇壮な みこしに酔う

（写真・詩提供 名立町公民館）

公民館の管理運営に関する質問事項

公民館等管理者研修会

申し込み受け付け始まる

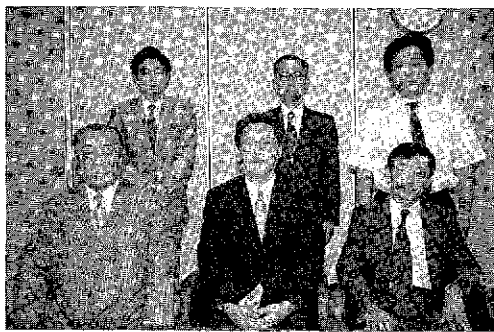
新設オープン(八月六日開館予定)早々の八月二十六日、県立生涯学習推進センターを会場に、「公民館等管理者研修会」が開催される。

この研修会は、昨年度当県公連が主催事業として実施した「公民館長研修」を具立生涯学習推進センターとの共催により開催するものである。

近く、県立生涯学習推進センター所長から開催要項が送付されるので、それによって申し込みたい。なお、会場の都合で定員五十名とし、先着順に受け付けることになる模様である。また、公民館等管理者の「等」については、社会教育行政職はもとより、公民館類似施設の管理者にも研修の機会を提供しようという配慮によるもの。

研修の主な内容は、先に当県公連で実施した調査の回答(左表参照)に基づき、問題点を解明しようというものである。参加者相互の情報交換とこの道のベテラン講師による指導講義を織り交ぜ、単なる「承り研修会」を脱皮することを目指している。

- 施設や職員に関すること
  - ア 望ましい公民館の設置方式は？(施設が分散すると職員も分散する)
  - イ 職員の勤務時間の実態を知りたい。(超勤・出張手当・休日出勤等・職員の過重負担の軽減策は)
  - ウ 非常勤館長のメリットや、あいさつ館長と職員との融和策、社・公の専事の兼務が多いところでの管理や指導は館長の責任外でよいのか
  - エ 館長と社教課長との兼務忙しすぎるが。
  - オ パート職員の身分の保証について。
- 事業や運営に関すること
  - ア 魅力ある学級や講座にするための工夫(特に高齢者教室のプログラム編成・高齢者教室のみ教委直営は？他町村の実情は)
  - イ 講演・講座等の講師謝金の実態は？(当該市町村の内と外、額・支出科目・講師の格など)
  - ウ 集落公民館の活性化
  - エ 認定団体の使用料減免の範囲(受益者負担の傾向の広がりの中で)
  - オ ホール等での整微な物品の販売はどこまで許されるか。
  - カ 民間企業の研修会場として公民館を提供することの可否。
  - キ 主催事業(又は、利用者事業)の講師の著書・テープ等の販売は？
  - ク 宗教団体の主催する講演会のための会場提供は？
  - ケ 宗教団体・政治団体への公民館の貸し出しは？(Aの使用を認めればB・Cと制限がなくなるが、回数制限など歯止め対策は？)
  - コ 政党の総裁選の投票所として貸し出すことは？
  - サ ある医的療法の施術者が、術者10人ほどで技術研究会を開きたいというが、この種のものに公民館を貸し出すことは？
- 公運審に関するもの
  - ア 社教委と公運審委との重複について
  - イ 生涯学習推進委と公運審委とが完全に重複しているがその可否は？
  - ウ 運営審議会が望ましく機能しているか、実情を知りたい。



六月九日(火)新潟市中央公民館会議室を会場に、今年度第一回編集会議が開催された。

編集委員会開催さる

一回編集会議が開催された。会議内容は「県公民館月報」の編集に関するもの。全委員とも新しく委嘱されたということもあって、フレッシュな感覚による意見が出されていた。基本方針は、前年度末に前委員によって樹立されたものを踏襲することとし、県公運機関紙としての役割を果たすことが確認された。当面数か月にわたる紙面づくりが検討され、親しみやすい紙面づくりについてさん断な意見が出されていた。また、編集協力員のな役割も果たすことが申し合わされた。

平成4年度公民館等管理者研修会開催要項

趣 旨 生涯学習推進の中核施設としての公民館の管理運営について、研修を架め、市町村の生涯学習推進・社会教育の一層の振興・充実を図るとともに管理者としての資質の向上を図る。

研修主題 公民館経営上の問題点と解決策

主 催 新潟県立生涯学習推進センター  
新潟県公民館連合会

期 日 平成4年8月26日(木)

会 場 新潟県立生涯学習推進センター

参加対象 公民館長及びこれに準ずる人

講 師 神奈川県川崎市立多摩市民館 館長 神崎 節生 殿  
(神奈川県公民館連絡協議会会長)

申し込み方法  
× 平成4年8月10日(月)までに、所定の申込様式により下記へ申し込んでください。  
新潟県立生涯学習推進センター学習振興課 宛  
〒950 新潟市女池 2066  
☎025-284-6110

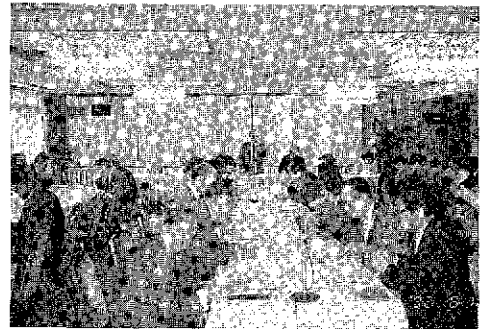
0:00-10:30		12:00	13:00-13:30	15:00
受付	開会式	昼休憩	分科会報告	閉会式
	「公民館経営上の問題点と解決策」(発表方式による討議)		指導講義	

### 全公連總會終わる

## 正会員会費値上げ案可決

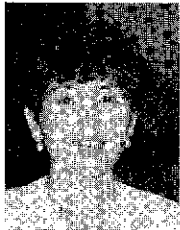
去る六月十日、社団法人全国公民館連合会の定例総会が東京半蔵門会館で開催され、本会からは細川正博会長が出席した。主要議題は正会員(各都道府公連)会費の増額にあった。この案件は、昨年度に財政特別委員会を設置して、慎重に検討してきたものであり、全公連の足腰を強めるためには、会費増額やむなしとして上提されたものである。

総会の席では、反対意見強く、実施年を二年間にわたる累積増にすることで修正可決をみたものである。それによると、公民館割・人口割によって細部が決まるものの、全体として、平成五年度に20%、翌六年に20%累積されることとなる。



## 辛口

月一回、学校の週五日制の実施が、いよいよ九月から始まります。共働き家庭が多くなっているにもかかわらず、親の勤めている企業は、週休二日制など、まだまだのところが多いために、親の留



守の間の子供への心配とか、受験問題を避けるとか、受検問題を選ばないかとか、日本の教育界で初めての試みであるため、直接関係する子どもを持つ親にとつて、先が見えぬ「今」が不安でいっぱいなのです。しかし、この時こそ今迄の子供達を取り巻く環境が、あまりにも学校教育に頼り過ぎていたという事、新しい部分にふれた公民館活動の展開に結びつけられたなら素晴らしい事だと思えます。公民館活動の大きな目的の一つとされている、人の和をもって、人と人と輪を広げ、地域の本当の意味でのキーステーションとなる為に、未来を背負う子供達に、何を与えていくかを考える活動も大切なのではと思っております。

大島 照美子

いよいよ学校週五日制の世の中です

いを募らせていく事で、新たな部分にふれた公民館活動の展開に結びつけられたなら素晴らしい事だと思えます。公民館活動の大きな目的の一つとされている、人の和をもって、人と人と輪を広げ、地域の本当の意味でのキーステーションとなる為に、未来を背負う子供達に、何を与えていくかを考える活動も大切なのではと思っております。

(新潟県小中学校PTA連合会副会長)

## 一枚のチラシから

星野敦子



市の公民館便りで「婦人学級生募集。学習のテーマは、「白根市探訪」」を手にした。一枚のチラシに魅せられて応募し、三年間の学習を終了した後、総勢十八名で暗中模索を重ねながら自主運営で学習を継続して七年目を歩んでいる。

性豊かな絞りを追究し、二十一世紀の白根市民へ「平成の白根絞り」としてプレゼント出来るまでになりたいとロマンを夢見ている。

さて、ここに至るまで公民館の皆様の絶大な御支援を頂いた。絞った布を染める施設がない。ここで、「お頼み申す」と押しかける。「市には財源がないので...」等と一度だって体をかかわされたことはない。関係機関へ協力の要請等、誠心誠意、草の根を分けても作業場の確保をして下さった。私共のサークルばかりではないことは当然。学習者を理解し、高い見識に立つての指導や援助。頭が下がる。人は熱心に感動し、尊敬の念はいや増すばかり。

## ひろば

私達の現在の学習テーマは、「白根絞りを掘り起こそう」である。かつて当市は日本三大絞りの産地の一つで、二百年程の間この伝統産業で栄えていたが現在は消滅している。その絞り染めの再現を目指している。お陰様で多くの方々の御協力、情報の提供を頂き、温故知新の心を基にし、仲良く楽しく技術の修得、向上、創造

一枚のチラシから多くの生涯の友を得、公民館の諸先生方から、「善を尽くす付き合い」を教えていただいた。

本年度も素晴らしい計画が運営で審議された。今をときめく生涯学習推進の発進基地として大いなる活躍を期待している。

(白根市中央公民館運営委員)

公民館実践記録シリーズ Part II

ふれあいと対話が築く 明るい社会

(社会を明るくする運動県実施委員会)

新潟市鳥屋野地区公民館

ボーダレス社会に向けて

成果をあげた「女性セミナー」

男女共同参加型社会の形成目指し

一、まえがき

新潟市の鳥屋野地区公民館は、人口六万五千、戸数二万五千の人口密集地域を対象とした地域には珍しく住民の中に公民館が定着し、活発に事業を展開している。それらの事業のひとりに、昭和六十二年から続いて

開設している「女性セミナー」がある。前の三年間は伊田千代子社教主事によって、(本紙四二号平成二年十月号で紹介)その後の二年を梶瑤子社教主事が受け継いで、見事なバトンタッチで進めてきたものである。

二、学習の経過

五年間の歩みについて、梶社教主事は次のようにコメントし

ている。「昭和六十二年より五年間にわたり男女共同参加型社会の形成を目指して「女性セミナー」を企画し、継続した学習会を実施してきました。五年の間には、女性を取り巻く社会環境はいろいろな意味で変化したように見受けられます。人間として、女性として尊重されているかどうか。今までの学習成果

が問われてくるでしょうが、学習の積み重ねは確実に力をつけ、女性問題解決のための活動の原動力になっていることは確かだと言えます」と。そして、平成三年度のまとめとして「男女がともにつくる社会を目指すための基本は夫婦単位であり、夫婦単位の活動、ものの見方、考え方が男女共同社会づくりに大きな役割を果たすことになるでしょう。」と指摘している。

その学習活動の経緯について概略を追ってみることにする。前の三年間では、最初は子育てをしながら、あるいは、子育てにひと段落した女性たちが、見通しのつかない将来に不安やいらだちを感じ、何かをつかみたいという気持ちから、つまり、参加者自身の内部に抱える問題の解決が学習の主題であった。二年目になると、「女性問題とは何だろう」という客観性に視点が変わってきて、三年目には「性差」を様々な角度から考え、女性が自分と向きあうことに努力した。

その学習活動の経緯について概略を追ってみることにする。前の三年間では、最初は子育てをしながら、あるいは、子育てにひと段落した女性たちが、見通しのつかない将来に不安やいらだちを感じ、何かをつかみたいという気持ちから、つまり、参加者自身の内部に抱える問題の解決が学習の主題であった。二年目になると、「女性問題とは何だろう」という客観性に視点が変わってきて、三年目には「性差」を様々な角度から考え、女性が自分と向きあうことに努力した。

四年目は、前三年の学習の成果を基盤にして、「主婦」とは何かを問題にしつつ、脱主婦かそれとも主婦であり続けるかを主題にした。そして、五年目は学

習のテーマを「出会ってしまっただ夫婦のこれから」となったのは、冒頭に記したとおり「男女が共につくる社会を目指すための基本は夫婦単位」であることから、夫婦の在り方、女性と慕、單身けんなどに及んだ。今、日本の社会は、男女共同参加型に大きく転換しつつある。公民館(社会教育)の事業では、婦人教育とか女性講座という学習分野は、これまで、重要な位置を占めてきたが、今、いよいよ濃くなりつつあるボーダレス社会においては、女性のための講座や教室は男女共同参加(出席)による学習機会にする必要がある。同様に成人男子のための学級や講座も男女共同出席にするものにならう。このような、公民館の学級・講座の展開は二十一世紀をまたずやってくるのではあるまいか。

三、あとがき  
この「女性セミナー」は平成三年度で一区切りをつけたという。そして、この延長線上の学習は、女性センターにお願いし、鳥屋野地区公民館では、これまでの成果を基礎として、より具体的な生活の課題をテーマにして掘り下げたものにするつもりだと、梶社教主事は語っている。

Table with 4 columns: 年度, 月日, 学習内容, 講師・助言者. Contains data for the 2nd year of the seminar.

Table with 4 columns: 年度, 月日, 学習内容, 講師・助言者. Contains data for the 3rd year of the seminar.

# 生活の課題を追って

## 枯木又の婦人教室

### 十日町市飛渡地区公民館

十日町市の中条地区から八軒ほど南の山間地に飛渡地区公民館がある。その枯木又集落は更に四軒ほど奥まったところにある。十日町市というよりは、足元に南魚沼郡の六日町があるという郡境の峠の集落である。

その集落(分館)の婦人教室の参加者十五名(全員)が、十年ほどまえに制作発表し好評を博した影絵劇「龍王伝説」を再び蘇らせ、近く十日町市の高齢者グループの記念イベントに賛助出演するための練習をしているというので訪問した。

六月六日土曜日の午後のことである。案内してくれたのは中条地区公民館主査の水落久夫氏である。水落氏は当時飛渡地区公民館に勤務しており、この影絵劇の指導に当たった人。いま、管轄を越えて指導に当たっているもので、これも職員ネットワーク化の一つであろう。

定刻の十四時には全員が集まってさっそく影絵劇の練習が始まった。スライドによる背景

と録音テープによるナレーションに合わせ、切り絵の人形を一人一人持って真剣に動かしている。その姿から、ひとつの芸術を演じるための各自の役割分担など共同性や責任性が集約されてこの人たちを一つにしていることが感じられる。また、指導と進行の任にある水落氏との呼吸もびったりとじていて気持



ちのいい練習風景であった。

### 婦人教室の歩み

枯木又集落の婦人教室の開設は昭和三十七年というから、三十年の歴史を経過していること

になる。当初の婦人学級生は五十名を越える盛況さを示し、「白主的学習態度の形成」にねらいを置き、気軽に鉛筆をもつ習慣、資料の利用に慣れる学習態度や、問題を社会的に捉える力を養うことを目標にして運営されてきたという。取り上げた学習主題は、健康問題や婦人問題など地域生活の中での課題である。この学習活動が大きな成果を得たの言うまでもないが、十年余が経過した昭和五十年になって一歩進んだ教室運営へと発展することになった。

当時、ますます深刻化してきた過疎化の進む中で、「過疎により変わりつつある生活様式」を後世に遺そうという発想と、これまでの「聞く学習」という受け身の姿勢から「調べる学習」という能動的な学習をしようという意図から「書き遣し」の学習に取り組むことにした。「調べ」そして「書く」学習が進められ、その学習結果をまとめて「枯木又を調べる」というタイトルで記録集としていた。その内容は、「枯木又の年中行事やその生い立ち」「年中行事とその料

理」「昔の食事」「女のくらしや子供の頃の遊び」「遊び唄」「枯木又の歴史年表」更には数多くの伝説や風習などの失われつつあるものを記録として遺す学習



を展開してきた。

ナレーションや科白の挿入など、多くの作業だったため二年の歳月がかかったものである。こうして、昭和五十七年には地元十日町市の内外で「影絵の学習」の成果の発表とともに、影絵劇を公開上演しきわめて高い評価を得たものである。

探訪を終えて

練習を終えた婦人教室の方々とはしばらく語り合った。婦人教室に参加したばかりのころは若妻学級のグループだったろうと思われる人たちが、今熟年女性として学び続けている。若い女性たちは生業の稼ぎに精一杯でこの時間(昼間)の学習活動には参加しにくいのである。

昭和五十三年になって、「調べる学習」を形として表現するために「影絵」づくりを始めたのである。その第一作は、地域に残るわらべ唄「枯木又の唄」であったが静止画だったことから、第二作目の「龍王伝説」で動く影絵にした。これを完成させるために、昭和五十三年十二月に始め五十六年までかかっている。シナリオづくりから、シナリオにそった人形などのカットングやバックの風景写真の撮影、BG音楽のテープ録音作成、

そんなことを思いながら、帰路の途中で飛渡地区公民館を左手に見ながら中条公民館へ帰ってきた。

ふれあいと 対話が築く 明るい社会

社会を明るくする運動県実施委員会



# 月 報 相 談 室

## 公民館と学校との連携

公民館と学校との具体的な連携事業について、他県の実験的研究の事例があるのでそれを取り上げて考えてみたい。

足利市助戸公民館の研究事例  
「公学連携により創り出される教育活動(月刊公民館 413 号酒井久夫公民館長)による」

足利市では、学校と公民館との連携について、四つのテーマに分けて、それぞれ分担して研究を進めてきた結果、両者の連携のあり方として三つのタイプのあることを見いだしたと言っている。

### 学社連携の三つのタイプ

A、学校教育(あるいは社会教育)がある教育活動を行なうに際し、社会教育(あるいは学校教育)の協力を求める方式。例えば、学校が宿泊活動を実施する場合に社会教育施設を利用する等。

B、社会教育(学校教育)が行なう、ある教育活動の目的が学校教育(社会教育)でねらっている目的と共通しているの

で、両者がバラバラにやるよりも一体となって実施する方が、より目的達成に近づくことが出来るもの。例えば、地域ぐるみのクリーン運動など。

C、社会教育(学校教育)で受けた教育の成果を、学校教育

## 学校週五日制への対応(2)

公民館は何ができて、何をやらなければならないか

(社会教育)の場で生かす(つなげていく)ことを意図的計画的に組む方式である。例えば、社会教育活動に参加した体験発表の機会や活動の場を学校教育の中心につくるなど。

『実際の学社連携の姿は、このような三つのタイプを基本形として様々なバリエーションが予想される。一般的にはAタイプのような連携が現在のところ一番多く、B・Cタイプの連携は、その実現を阻む種々の事情

があつてなかなか実践されていないと思われる。特にCタイプのような場合、具体的に一人一人の子どもの動きと緊密に関わってくるだけに両者の連携はかなり密度の高いものになることが予想される』と書かれている。

### 本県の公民館の活動

ひるがえつて、当新潟県内の公民館の少年対象事業を見ると、AタイプBタイプの連携も少なくないと思われる。事例を紹介

の教育目標を生かすプログラムのため、各小学校から必ず一名の教師が出席して公民館職員との間で十分に相談している事例がそれである。更に重要なことは、その「リーダー研修」に参加した児童は、やがて、学校で実施する他の事業についてのリーダーとして生かされるということである。

このような学社の連携による事業は一層重要になってくるであろうがそのためには、学校の教師と公民館職員との十分な話し合いが必要なことは前号で指

する紙幅の余裕がないので、資料のみ紹介すると、本紙442号(平成元年12月号特集記事)

に所載の「新しい試みの家庭教育教育学級」における浦川原村中央公民館の、地域・PTA・学校が、丸となって地域活動を実践している事例。

本紙425号(昭和63年7月号)に所載の「少年宿泊研修」の村上市の事例のように、企画立案に関して、児童心理の特性を把握するために、学校の教師の意見を聞いたたり、当該小学校

摘したとおりである。あとがき

ここに取り上げたものは、学校と公民館との連携・協力を視点を置いた部分であるが、この部分も含めて若干の学校週五日制に対する公民館の対応について考えてみたい。

①学校週五日制についての公民館の特別の対応ということはないのではあるまいか。これまで、地道に実施してきた「学社の連携事業」「家庭教育学級」「地域

づくりの学習や活動」をもう一度見なおすことであろうと思う。

②しかし、「県社教委提言」に述べられているように、公民館はどちらかというと成人中心につくられている施設であるから、施設・設備においても、事業面においても、子どもの活動に対する配慮とか、図書室の整備によって公民館を進んで活用する意欲を持たせる配慮も大切なことである。

③また、指導者に、学校の教師を迎えることは大切なことであるが、この場合、学校の教師としてよりは、地域に住む一社会人として対応することが効果的であるという県内の実践結果も報告されている。

④蛇足めくが、学校週五日制への本質的理解への啓発学習や、家庭の教育力、地域の教育力の向上のための学習活動など、学歴偏重の教育に固執する、親や社会の意識変革が見えるような対応でなければならないことは言うまでもない。そして、

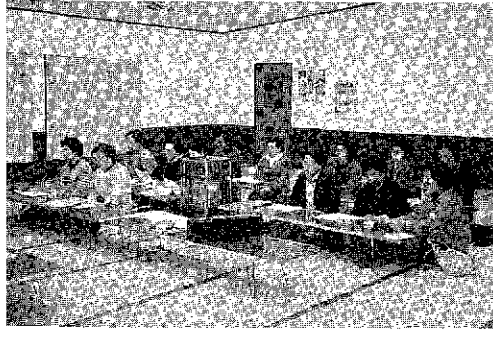
⑤公民館がオールマイティではないということも公民館関係者自身が知ることである。公民館のできることで、公民館だからやらねばならないことを鮮明にする必要がある。

# サークル交流

・楽習がモットー

## 矢代民謡サークル

「ハァー 佐渡ヘー」  
「ちよっと違いますね。よーく聞いて下さいよ。」  
月二回の練習日はいつも同じことになり返して、もうすぐ一年になります。昨年私の住む新井市矢代地区に三つのサークルが誕生したその中の一つ。メンバーは十九人。年齢差、性別にとらわれず、自主運営の中で時には盃を交わし他サークルと交流し、いつも涙の出る程笑い転げ、進歩の方は二の次、一向気



にしない。

「声が出る様になっただけいいよね。」と、自賛と聞き直りて先生を困らせています。その上、今年地元敬老会にも出演するんだと、あつかましいまでの「民謡サークル」でもあります。

平成五年十二月には地元大毛無山に自然を損なわない日本のスキー場がオープンし、今まで無名の地が一気に脚光を浴びる訳ですが、時々私たちが時の流れに乗り遅れない様にしなければと笑いの渦も止まることはありません。

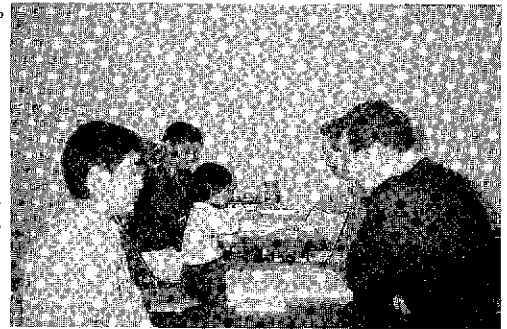
民謡交流に合わせたのスキー交流。夢は限りなく膨らみます。どうぞお出掛けください。

(新井市生涯学習指導員 田中 康子 記)

## 将棋は閑屋へ

### 一步会

「一步会」は昭和六十三年閑屋地区公民館の前身である南部公民館で将棋初心者教室「一步会」として始まった。将棋の勝負は歩の働きが大きい。歩は敵の飛車、角からは味方を守り、攻めてはと金となつて、敵玉に迫る。一步の有る無しが一局の運命を



別ける。しかも、と金は敵に取られても歩であり、他の取られ駒のように、とられたらすぐ味方のすきのある所に打込まれて大攻撃を受けるといふ事が少ない。一枚の歩を大事にする気持ち。人生にも大事であり「一步会」の所以である。当会には小学生が多く入会する。時には幼児も入ってくる。よくわからないままに好きなのであろう。教えるのは苦労だが、成長は楽しみだ。そこで毎年八月に無料の入門講座四回を開いている。老人、女性も多い。又当館には将棋愛好会と将棋クラブがあり、親類付き合いをしており、合同大会等も多くなってきた。楽しみである。

(一步会代表 小倉 正孝 記)

## 津南町公民館主事

阿部 麻実さん (32歳)

委託司書の六年間を経て、今年四月一日より正職員として公民館に配属された歳をくった新人です。昼夜にわたるたいへんな仕事だなぁと思つて今まで見て来ましたが、気がついたら家にはほとんど泊りに帰るだけ、親も「下宿の大家さん」と化しております。仕事行くのやだ



なぁ」と思うことのないのは公民館の仕事を通じて知り

## 素顔 拝見

合える町の方々に来てもらって居るからでしょう。今年度から地区館担当制をとる当館の中で、特に地域活動が盛んな所をもらい、地域のみなさんに来たえられています。生涯学習や公民館の本を改めて読み返していますが、まずは地域の人たちとの対話から始めようと自分に言い聞かせている私のでっかいお尻を出会えた人たちがたいていくれます。本音で語り合える公民館職員を目指して。どうぞよろしく。

(津南町公民館主事 阿部麻実 記)

## 新発田市公民館

小竹林 和 良氏 (31歳)

名前を「コタケバヤシ」と読みます。みんなからは、「タケちゃん」と呼ばれています。青少年ふれあい活動と高齢者生きがい事業を担当しています。

これまでは総務課として教養学事課と、財務規則に縛られ帳尻合わせに苦心惨たんでした。

ここ公民館では、兎に角やつて見なければ、時として先の見えない、どこかアウト部分にとまどいを感じつつも、十色の若者と山千のおじいちゃん・おばあちゃんの明日を目指して奔



走の毎日です。テニスクラブに所属し、目下、

20市スポーツ大会に向けて秘策を練っています。愛しいひともし、未だ誰にも顔はもちろん名前すら知らせてません。人とのふれあいを説く公民館職員が、これで良い訳ありません。しかし、私には「宝物」を大切にしたい彼の気持ちはよく分かるのであります。頑張れ!

(新発田市公民館係長 阿部義弘 記)

### 自然科学館事業紹介

県立自然科学館では、下表の事業を実施しています。学校の夏休みを迎え、公民館の事業として、親子づれの見学としておすすめします。

#### 〈特別展〉

～水と遊び、水を科学する～  
水は、動植物にとって太陽や空気と同じように欠くことのできないものです。さらに、水力発電や水上交通などにも役立っています。

- 「水」を科学します。
1. 日時 8月30日(日)まで
  2. 場所 新潟県立自然科学館特別展示場
  3. 内容 「水の広場」「水と生活」「水の実験室」「水の科学」「水の劇場」の5分野95点の展示と「水の上昇実験」を行ないます。大人の方も十分楽しんでいただけます。

#### ☆天体観望会

1. 日時 8月5日(水)、20日(水)、29日(日)各日とも午後7時～9時
2. 場所 新潟県立自然科学館 屋上
3. 内容 5日(水)…土星と夏の星空案内  
20日(水)…土星と夏の星空案内  
29日(日)…土星と夏の星空案内
4. 対象 小学生以上(小学生は保護者同伴)
5. 参加料 参加は無料です。当日受付までおいでください。
6. 受付 当日自然科学館正面入り口にて、午後6時30分から午後7時まで
7. その他 雨や曇りの場合は中止(当日午後4時に決定)

#### そのほかにも

- ☆第6回トレースロボット工作教室 8月6日(木)、7日(金)
- ☆動くおもちゃの工作教室 8月19日(水)、20日(木)
- ☆鳥の巣箱づくり 8月22日(土)
- ☆楽しい科学実験教室 8月25日(火)
- ☆プラネタリウム 「コンとミーのオーロラ紀行」撮影中



## 相続・遺言問題講演会 無料講師派遣

### 県弁護士会が社会貢献

近年、土地等の資産価値が高騰したことや、人々の権利意識の高まりなどによって、相続に関する問題に関心が寄せられています。この機会に、新潟県

公民館(中央館・地区館、本館分離は問わない)でも、いつでも、参加人数の多寡も問わないということですが、

但し、開催予定日の一カ月前には申し込んでほしいと言っています。

同弁護士会では、本年度の計画として30回程度を予定している由。

弁護士会では、社会貢献の事業として、公民館での講演会(相続・遺言のテーマに限る)に、旅費・日当・謝金などすべて無料(弁護士会が負担)で、県弁護士会所属の弁護士を講師として派遣します。

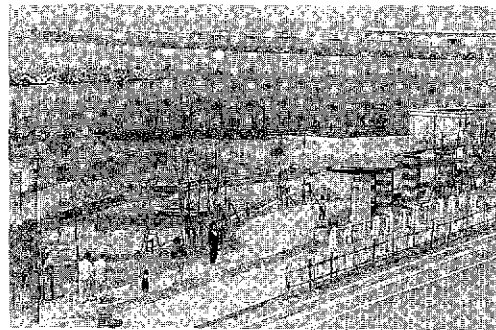
この講演会は、県内のどこの

関心のある向きは、直接左記へ連絡相談してください。  
連絡先 新潟県弁護士会  
(電話)〇二五―二二―三三六五  
担当若林さん)

## まちからむらから

市町村の隠れた名所の紹介のコーナーです。  
【上越市の巻】  
夕日を浴びて

いこいのひととき船見公園。晴れた日には、散歩を楽しむお年寄りや、野外卓でお弁当を広げる親子連れ、ローラースケートに興ずる子供たちの姿を見かけます。ここは船見公園。護岸と離岸堤の整備にあわせて、護岸の内側を埋め立ててきた公園です。面積約二万八千方米、長さ約八百メートル、幅は十五メートルで海岸線に沿って細長い公園で、緑地と遊歩道を中心にカ



ラー舗装した自由広場、日本海を一望できる見晴らし台など、

駐車場も完備。

夕日を浴びながら潮風に吹かれたり気持ちのいいひとときがあるのを待っています。

近くには、水族博物館や海浜公園があります。ちよつと足をのびして海と遊ぶひとときをあなたも楽しんでみませんか。  
(上越市立公民館 横倉章文記)

### あとがき

◆七月二十六日は参議院議員選挙の投票日。とかく、参議員選挙という国民の関心が薄いとされていますが、今回はどうでしょうか。

◆それについても、公民館は政治教育の大事な場とされています。明るい選挙のための啓発活動は政治学習の一環。投票率を高めることも学習の成果を計るバロメーター。みんなで関心をもちたいものです。(上村)

発行所 新潟県公民館連合会

【新潟市川端町2-9・県林業会館内】  
【電話・新潟 (025) 224-6073】

発行人 会長 細川正博

編集人 事務局長 上村捨二郎  
【定価1部130円(共)・年報1,560円】